

墮つ滅

鬼願幸福教団

入信編 



ハメまくり
ガチイキ
中出し稽古♡

「教祖様との生ハメ中出し
おちのほ交尾こそ物の真の幸福
さあ♡やりまくりまじらう♡」

洗脳悪墮ち
ふたなり
寝取られ

正

ちんぽ

便器♡



師範

ツッ

ツッ



…カナヲ
よく来てくれました

早速ですが
今私が潜入している
教団については
聞いていますね

は…はい



実はその件であなたに
協力して欲しいことが
あります

これはあなたにしか
頼めないことなの

…そうね
どこから話したら

…首輪？



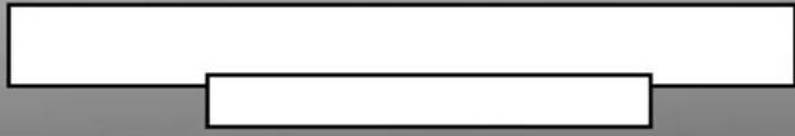
…ふふ
ええ…ええ

話をするよりも
これを飲んでもらった
ほうが…ふっ

…ふふ
ずっと
早い

し：師範
…これは？

大丈夫、飲めば
分かりますよ
カナヲ
さあ…ふふ
言われた
通りに…
ふひっ♡





たぽん

たぽん

ちんぽ
教祖様



あ...ありがとう
ございま...ブ
教祖様の教えの
たまものれふ

ちんぽにくる良い
鳴き声だ

しのぶ
修練をつんだな

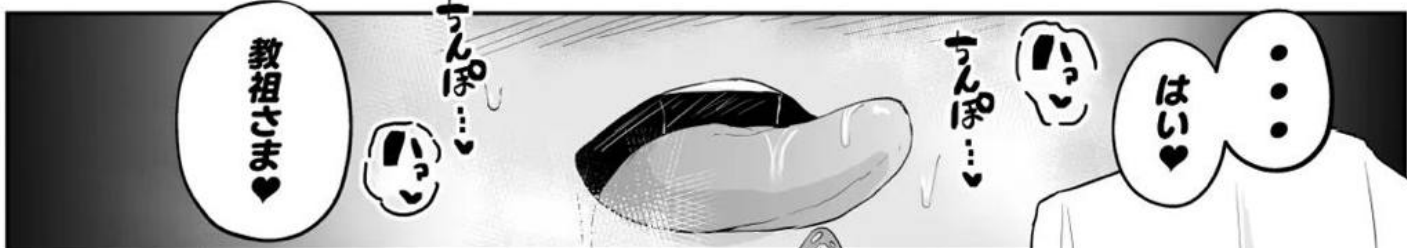
あー

おっ

あー

おっ





どう？教祖様の
ちんぽは
美味しい？

カナヲ

はひ 師ひゃん
美味しいれす
ちんぽ♡

師範のおまんこ汁と
教祖様のおちんぽ汁が
混ぜっれ…♡

すごくスケベな味が
しましゅ♡すきい♡

がー



ふっ…
それにしてもだ

カナヲもすっかり
お前に似た
雌らしいドスケベ顔
をするようになった…

指導の
賜物だな
しのおよ

あん♡
もったいないお言葉

姉として師として
私もカナヲの成長
嬉しく思います♡

ちんぽ

がー
ズ
ズ





カナヲ
口をあけて
受け止めなさい
教祖様の貴重な
ちんぽ汁
こぼすことは
許しませんっ！

んへえっ♡



ええ♡教祖様に仕える
ちんぽ奴隷の身としては
少し悔しいですが

カナヲ
お褒めの言葉
良かったわね♡

顔面アクメで
潮吹き
イキしょん
メス豚の素質は
お前以上かも
しれんな

おちゅー♡
おちゅー♡
おちゅー♡

おちゅー♡
おちゅー♡
おちゅー♡

おちゅー♡
おちゅー♡
おちゅー♡

おちゅー♡
おちゅー♡
おちゅー♡

おちゅー♡
おちゅー♡
おちゅー♡

おちゅー♡
おちゅー♡
おちゅー♡



この鬼淫紋の濃さ...♡
いよいよこれで♡

うむこの交わりで
仕上げとなるだろう

ちゅ



鬼願幸福教の
教えに従い生きる
一匹の雌に...♡

はっ
はっ



ああ♡
もうすぐですよ♡
カナヲ

あなたも
私と同じ鬼願幸福教の
教祖さまの真の同志と
なれる...♡

ぐぐ



思い出します♡
鬼殺隊などという愚かな
クズ集団の一人だった
私を同じように
お救いくださったあの日を

私が真に
命を捧げるべき人に
出会った日を♡

愛して
おりまふ♡
教祖さま

そう...
私は救われた♡

はっ
はっ

ひと月前に
この方と出会って♡

では
その神酒を
飲むが良い

うむこれで
汝は晴れて
我が鬼願幸福教の
同志だ

大丈夫匂いからしても
毒は入っていないはず

潜入は成功
あとはこの男の
正体を掴むだけ

よろしく
同志しのぶ



鬼の神を崇め祈りを捧げる
ことこそが真の幸福に
つながると言うたう
鬼願幸福教

鬼の関与が疑われることから
何名もの鬼殺隊員が
派遣されましたが連絡が途絶

しかしここまで
近づいても
はつきりしない
なんて

ではしのぶ
正式な同志となった
汝の挨拶でこの
入信の儀の締めとする

やり方は
分かるな？

…はい

事を重く見た本部からの
命を受け私もまた
教団に接触したのです

この男
鬼だとしたら
相当気配を
隠すのが上手い

新たに皆様の
同志となりました
しのぶです

鬼願幸福教の一員として
立派なちんこキ教徒になれるよう
頑張りますので皆さま
ご指導よろしくお願ひします♥

とにかく正体を掴むまで
怪しまれないように
しなければ…

パチ

パチ

パチ





おお！なんと
そそのスケベな体

まんこを開いて
おちんぼ様に
媚びる…

女としての挨拶の
…き…ほん？

ちんぽ
せしや

きほん…
ちんぽ…
基本…

ちんぽ

流石は教祖さまが
入信を許された方だ



そうね♡
そうだわ

ハメても？
同志しのぶ

はい♡おまんこに
お勃起ちんぽの濃い
一発お願い致します♡

何も
おかしくない



ちんぽ

おまんこ
おまんこ

そして始まった
教団での
きびしい修行と
お勤めの日々

どうだ？
胡蝶しのぶは

これは！教祖さま
ええ♪
ご覧の通りです♡

くく…柱と警戒はしたが
この様子なら
すぐにでも位をあげても
かまわんかもしれんな

全ては教団員として
より高い位にあがり
教祖様に近づくため

ちんぽ
子種又キヌキ
稽古すきっ♡

精子ちんぽ汁
せつくす
せつくしゅう♡

おん

ほ

ほ

ぶ
でもた

ちんぽ

まんこ柱

玉玉

お、お、お、お
ほ、ほ、ほ、ほ
ま、ま、ま、ま

正

正

休むな
こっちも
だすぞ



ですが
位があがり教祖様に
近くなるころにはもう…

それではお体の
汚れを流させて
いただきます♥

うむ今日も
よろしく頼むぞ
同志しのぶよ

むん

むん

ああ
いいやはり
しのぶの乳洗いは
教団一だ…

あん♥
嬉しい

このような無駄に育った
えろ乳♥どうぞ
いつでもお使いください

鬼殺隊としての私は既になく
教祖様に尽くすことこそが
私の全てとなりました♥

パキ

カキ



ではいくぞ
しのおよ
覚悟はいいな？

はい♡
教祖様♡

くちゃ



体液を媒介に人の心を
操る我が血鬼術

そのもう一つの力が
この鬼淫紋…

快楽を栄養に育つこのの
完成をもってお前は
身も心も完全に我が物となる



改めて問おう
鬼殺隊の蟲柱
胡蝶しのぶ

人の身でありながら
鬼の尖兵になり下がる
覚悟は良いか？

トッ



私を罫に嵌めて
術で価値観の全てを
塗り替えたうえで
聞くんですね♡

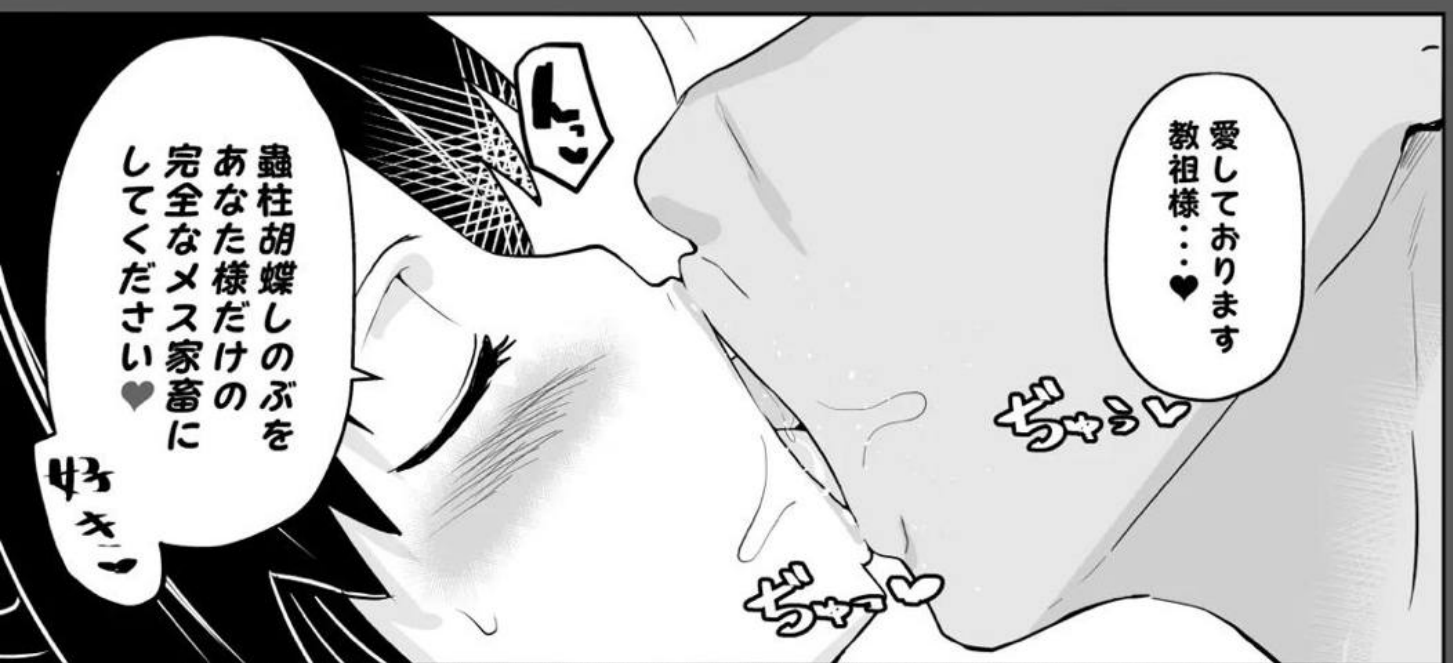
…でも…

でもっ

本当に卑怯で
最低な鬼らしい…

…ふふ♡今は
私も大好きなんです
卑怯で最低なこと♡

おしゅわんわん♡



愛しております
教祖様…♡

ちゅわん♡

ちゅわん♡

蟲柱胡蝶しのぶを
あなた様だけの
完全なメス家畜に
してください♡

おきゅん



おきゅん
おきゅん

おきゅん♡

おきゅん♡

おきゅん♡





墮ちる♡ごめんなさい
わらひ墮ちゆ♡
教祖さまとセックス
イキまくりドスケベ
生活おくりゅ♡

らめっ♡ほっ♡
ちんぽちんぽ
ちんぽちんぽ♡

ちんぽはのり♡
ちんぽはのり♡

ちんぽはのり♡
ちんぽはのり♡

ちんぽはのり♡
ちんぽはのり♡

さあカナヲ
見せて♡

私に見せて
カナヲの人生終了
アクメ見せて♡

人間
終わって
家畜になれ

ほら
イケワ

はやくイケ

いつて終われ
人間やめろ

イケイケ
イケイケ





どう？今の気分はカナヲ

最高です師範♥

頭の中のいらぬ物がなくなつて残つたのは教祖様のことだけ♥これが真の幸福：♥

ふふ良かった♪私とおそろいの蝶をあしらつた首輪家畜の証もよく似合っていますね♥

師として姉としてあなたを幸福に導けたこと嬉しく思いますよ♥

さてカナヲ

あ

QDお



今日をもって
鬼願幸福教の
真の教えに至った汝に
最初の命をくだす

姉とともに
成し遂げ
忠義をしめせ

はい♥全ては鬼願幸福教と
教祖様のために♥
いかなるご命令も
身命をとしまして…♥

教祖様♥

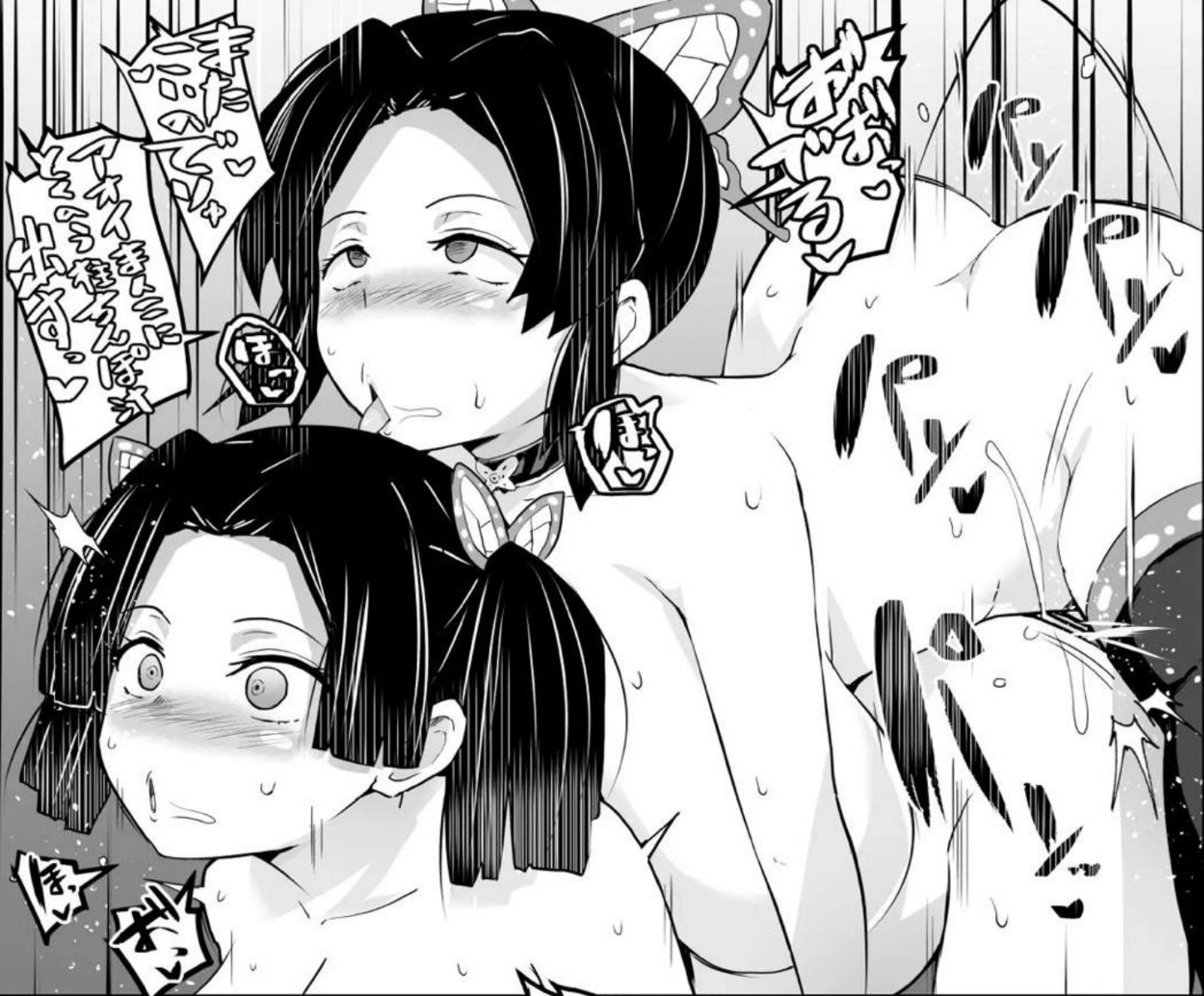


師範…
失礼します

か♥カナヲれすか
すいまへ
少し待っれ…
くださ…おっ♥おあ

そして
しばらく後

蝶屋敷



私のちんぽを
通じてれる
教祖様の教え汁で
いくのれす

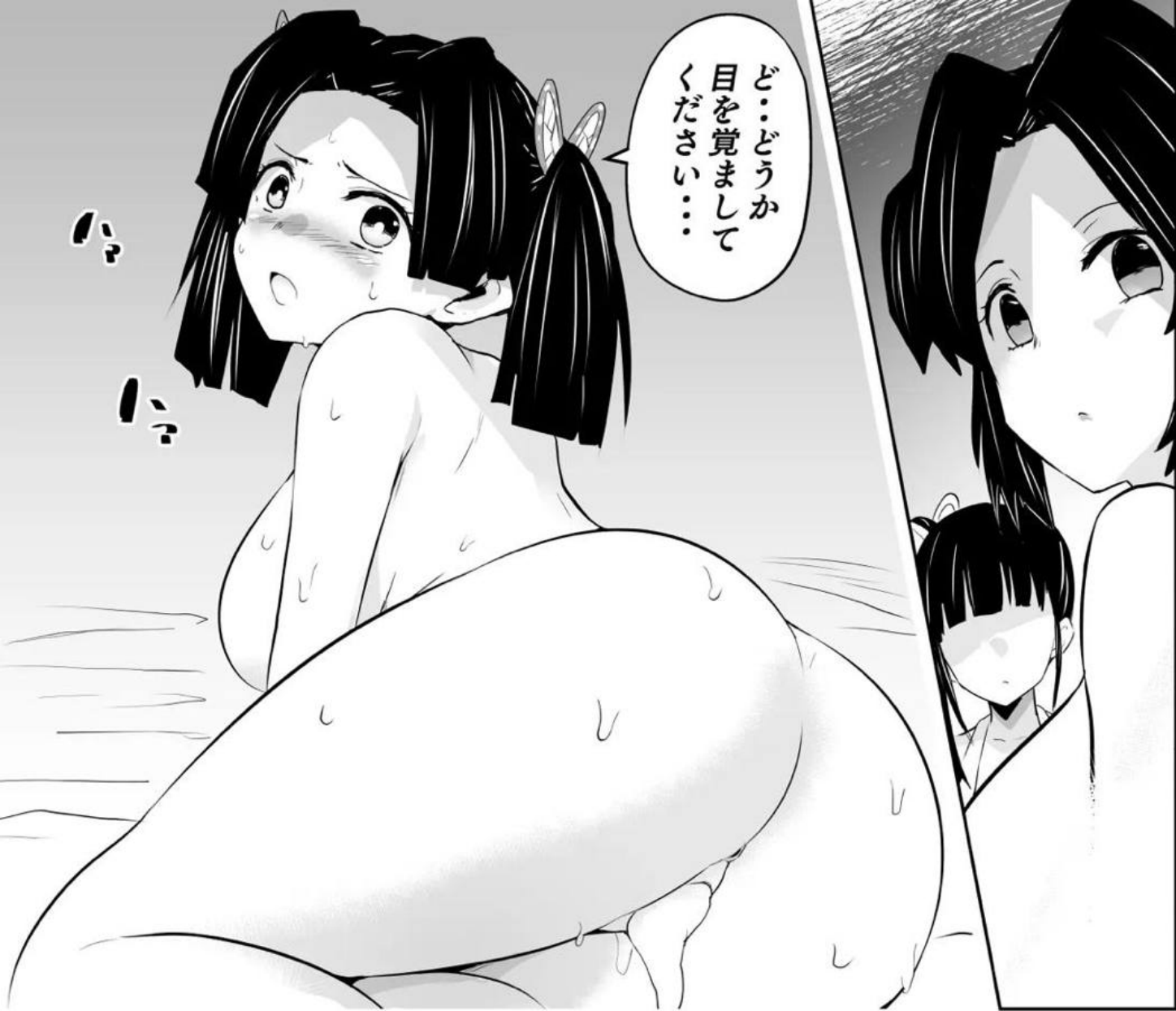
やめません♥
アオイも
イきなひゃい
アクメひろ

ちんぽ汁はおまんこ
中らしが基本っ♥
教祖様の教ひえっ♥

中出し
また
中出しれす♥

しのぶひゃま
やめっっ





ど：どうか
目を覚まして
ください……

皆の知る蟲柱
胡蝶しのぶは
こんな術に屈したり
しない

信じています
最低な鬼なんか
負けないと

だから
元のしのぶさまに
……どうか……

……

アオイ



後木乃初祖様

お前が

アオイ

いいですか

お前みたいなの
ちゃんぽをイライラ
させるだけしか
取柄のない牝

アオイ絶対に
お前もしてやるッ

私達と同じ教祖さまに
媚びる牝に
豚にチンポ穴にい

お前が言う
最低に奉仕する
存在にしてやるッ

して
やりますからね

それが
のうのと
生きているほうが
よっぽど最低
なんですよ



カナヲあなたも
来なさい

少し休憩するつもり
でしたが気が
変わりました

この靴に
分かせます
徹底的にです

はい
師範 ♡



教祖様が私達に
命じられた任

それは蝶屋敷を
鬼願幸福教の
新たな拠点とする事

教祖様の
血鬼術の応用した
このふたちんぽで
教えをより多くの人に
広める実験の二つ

カツカツ
マスのカツカ

ほ

ほ

ほ

ほ

ほ



アオイはどうかやら
教祖様の術が少し
効きにくい体質で

びん

ぽい

ぽい

びん

びん



そのため師範は
快樂という教えを
体と心に刷り込む
ことで

まっ

まっ
い

鬼殺隊などという
愚かな組織の呪縛から
アオイを救おうと
しているのです



まっ

まっ
い



まっまっれ♡
やめっ
しのぶしやま
カナヲやめへ♡

なんかでりゅ
出ひゃうから♡
くるっ♡
くりゅからあ

ズル

ベ

ズル

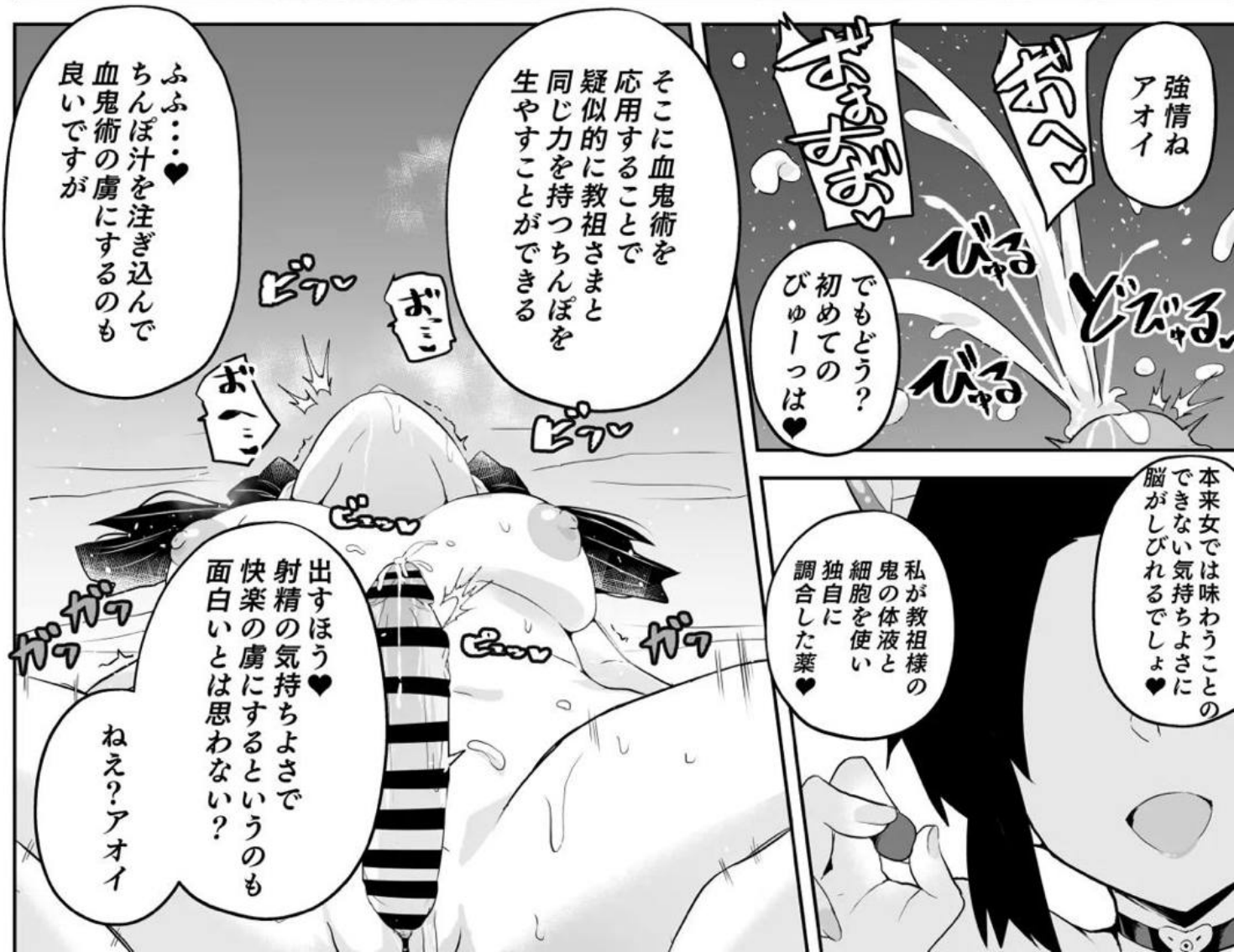


アオイだしなさい♡
初めての射精♡
童貞ちゃんぽ精子
ぶちまけるのです

ふたちんぽ射精の
気持ちよさに負けて
鬼願教の同志に
なることを誓うの♡

誓えっ

ズル



強情ね
アオイ

でもどう？
初めての
びゅーっは♡

本来女では味わうことのできない気持ちよさに脳がしびれるでしょ♡

私が教祖様の鬼の体液と細胞を使い独自に調合した薬♡

そこに血鬼術を応用することで疑似的に教祖さまと同じ力を持つちんぽを生やすことができる

ふふ…♡
ちんぽ汁を注ぎ込んで血鬼術の虜にするのも良いですが

出すほう♡
射精の気持ちよさで快楽の虜にするというの面白いとは思わない？

ねえ？アオイ

びゅ

びゅ

びゅ

びゅ

びゅ



ふふ♥教祖様を
お迎える日まで
まだ間がありますが♥

本当にあなたが
最後まで快樂に
負けずにいられたら
何か奇跡のような
ものも起こるかも
しれませんね♥

クゥ

クゥ

ちゅ

ちゅ

ちゅ



頑張ってください
アオイ♥

信じていますよW

ドゥ

ま

ドゥ

ま

ま



みなさん
朝食後のお勤め
朝又キはこちらで

んふ♡
順番ですよ♡

すでに何人もの同志達を
迎え入れて幸福教としての
お勤めや修行も始まっています♡

眼鏡山

出すぎ三人とも

はひ♡
朝汁くらはい♡

あ♡た：炭治郎
帰ってただね♡

ああうん
ついさっき
カナヲは

バキッ
バキッ

うん♡
しゅ♡修行中う♡
あたらしい呼吸の
修行中う♡なのお

ほ♡

お♡

お♡

もんちんぽ♡
お♡



そ…それにしても
人が増えてにぎやかに
なったね

しのぶさんに
聞いたけど鬼殺隊を
支援してくれる
人たちだって…

うん♡そうなのお
あ♡ちよっろ
まっハ♡イグッ
ケツイクかりゃ♡

あせあせ

ちんぽ♡

ごりごり
ちんぽで朝から
ケツまんこ♡
セツクス最高♡

全集中…
ケツイキの呼吸
あ♡おほお♡





あはっ
ケツ穴精子れ
いっばいいい♡



へへ♪
同志カナヲのケツは
やっぱり最高だな
もう一発いいかい？

はいお願いしますう♡
もっとカナヲのケツに
ちんぼハメハメ稽古
つけれ♡

蝶屋敷を取り巻く
教祖さまの体液を
含んだ霧が

屋敷に入るものの
認識を都合よく改変



ほぼ全ての人間が
屋敷で行われている
ことに疑問など
持たないでしょう♡

ちんぼ

いっば



例え何かがおかしいと
感じてても

それが何かは
分からない...

ふふふ
明日の教祖様を
迎えての宴...

炭治郎くんは
良い出し物の一つに
なってくれるかも
しれませんね

おめでとう



よく集まってくれた
教団幹部の諸君
並びに教団出資者の
御方々

知っての通り
この蝶屋敷は我らの
計画の中核を担う
拠点になる

ここを手に入れられた
ことは非常に大きな
一歩である



今日はささやか
だが
この大きな一歩を
諸君たちと分かち合いたいと
宴を用意させてもらった

お前たち
来なさい

はい

本日皆様のもてなしを
させていただきます
教祖様の穴柱しのぶです

すぢご

こちらのカナヲとアオイ
ともどもこの体を使った
ドスケベ芸に出し物♥

皆さまどうぞ
お楽しみください♥



ということだw
元鬼殺隊の柱が
用意した
最高のもてなし

諸君おおいに飲んで
食べてハメてくれたまえ

ほ

ちんほろ又
①



負けまひえんよ
カナヲ♡

しひゃん
それはこっちの
セリフれひゅう

うま

んぼ

んぼ

んぼ

このちんぼ精子
ぶっこ又キ対決う♡

今日のために
磨いれきた
技で師範に
絶対にかちゅ♡

ふふ♡カナヲ
技などと言っ
れいる
ようれはまだ
まだね

愛♡
おちんぼ様への
深い愛♡

愛こそが
肝要う♡
んふう♡

わろま

んぼ

んぼ



こっちもだ
舌出せメス豚あ

ぐっ出る

びゃ

はへえ♡

びゃ
ま

あ♡



だ

彼女は今日が教祖様との
初対面♡そして初の
お勤めです♡皆様どうぞ
祝ってあげてください

お



んふ♡
続きましては

この蝶屋敷で私達の手で
鬼願教の教えに目覚め
同志となったアオイ♡

同志アオイ♡
教祖様初セックス

ふふしのぶと
カナヲから話は
聞いていたよ

改めて鬼願幸福教へ
ようこそ同志アオイ

今日からは
私が君を導いていく
主人だ

まずは毎日のように
ハメるこのちんぽの形に
まんこをしっかり
慣らすように

ぢゅ

ぢゅ

はひ

ぢゅ

ぢゅ

べ

ではせっかくの余興
皆の前で誓うのだ
メス豚宣言できるな？

はひ♥教祖様あ♥
もちろんれすう

私は教祖様の豚あ♥
ご主人様に全てを捧げる
おまんこ豚ですう♥

ぢゅ

はひちんぽ
おまんこ

はひ

ちんぽ
おまんこ





炭治郎

フリ フリ フリ



私たちのスケベおまんこ宴会

どうのしんでくれている？

ちんぽ

ちんぽ

ゴッ

ゴッ

あはっ♡

おちんぼバキバキに
勃起させてシコシコ
楽しんでくれたら
嬉しいな♡

バイ

だってね♡ふふ
少し恥ずかしいん
だけど

私♡炭治郎と
出会って...

心のままにって
言ってくれたあの日から

もしかしたら
これがいつか
言われた恋って
ものなのかもって...

ずっと
そう薄っすら
思ってたの♡

うふふ♡
つまりい
どういうこと
かっていうとあ

おねね

教祖様
おちんぼ

そんな炭治郎の前
セックスするのが
最高に
興奮するってことお

ほ

ちゃんぽん
せつくす
最高お

神

教祖様の
おちゃんぽん様は神い

教祖さまの
おちゃんぽん様が
私の全てえ

刻み込んで
炭治郎の記憶にっ
これから一生私と
教祖様のセックス
思い出してシッコって

鬼殺隊裏切って
鬼との交尾選んだ
女でシッコって

たんじろっの
心のズレ

パン

お

お



おおっ♡

ほっ…
ほへえ♡

よほっ♡



炭治郎君だったかな？
せつかくの宴だぞ
さっきから見ている
だけではもったいない

どうだ君もハメてみるか？
私が言うのもなんだが
同志カナヲは良い穴だw

……

ふっ♪
そうかまあ気が
変わったら
言ってくれ
宴は始まった
ばかりだからね♪

：・竈門炭治郎
中々面白い余興だった
しのぶ

ありがとうございます♡

鬼殺隊などという
クズの一人がこんな形でも
教祖様のお役にたったの
なら大変喜ばしいことです

ひゃっ♡
ひゃっ♡

我が術の強度の
実験にも
なっただろう

次の計画でも
その働きに期待する
しのぶよ

はい♥
お任せください
教祖様

それで首尾のほうは
どうだ？三人とも

あっぱい

あやう

はい教祖さま♥
全て順調
時期に準備が
整うかと...

うむご苦労
雛鶴
まきをを
須磨

はい♥

計画に問題はない
後はもう一枚ほど
強い手札が欲しい
ところか...

ならば...

うん

キメツ学園フォーリングダウン 日高久志

「その……私と二人きりで話したいというのね？」
「はいっ！俺が今頼れるのは、しのぶさんだけなん
です！」

二年生の竈門炭治郎が真剣な表情で、胡蝶しのぶを
ジッと見ている。

（この子に限って、間違いはないでしょうが……
それでも……二人きり……というところを強調し
たつもりなのですが……）

今の自分の立場から言えば、彼にホイホイと付いて
いく訳にはいかない。

彼は自分の妹、栗花落カナヲの恋人なのだから。

でも胡蝶しのぶは、炭治郎の真っ直ぐな瞳を前に断
りきれなかった。

何より今の荒んでいくキメツ学園に、彼のような気
持ちのいい人間は必要だ。

「じゃあ、放課後にでも」

「よかったっ！お願いしますっ！！」

元氣よく挨拶をして去っていく炭治郎の後ろ姿をし
のぶは悩ましげに見送っていた。

「鬼殺隊の事も……これからどうしようかし
ら……？」

キメツ学園に新しい校長が赴任したのは、つい
先週のことだ。
元校長の産屋敷あまね先生は補佐として残るらしい。
高校の人事としてはかなり異例だ。

「みんな、新しい校長先生の言うことをよく聞いて、
よく従いなさい♪そうすれば私のように幸せな同志
になれるのですから♪」

あまね先生は惚けた笑顔で、本当に幸せそうにそう
言った。
首に付けたチョーカーを擦りながら……
物静かな彼女からは想像も出来ない艶やかな表情だ
った。

そして代わって校長になった男……鬼願（きがん）
は、悪い噂しかない男だ。

でつぷりと太った醜い身体に、気持ち悪い体臭。

そして何より甲高く耳障りな声が、人を遠ざける。

鬼願の悪い評判はすぐに現実になった。

生徒や先生に対して、位（くらゐ）を付けるとい

う全時代的な制度を打ち出したのだ。

しかも校長自身を崇拜することを強要し、同志と呼
んで服従させる。

不死川先生、煉獄先生、宇髄先生達は猛反発して、
鬼殺隊と名乗り始めた。

大正時代にあった鬼狩りの組織に肖ったらしい。

鬼願校長を職員総出で追い出そうとしたのだ。

その結果、暴力敵な事に加担しなかったカナエ先生
を除いて、全ての先生が自宅謹慎になってしまった。
どうやら内通者がいたらしい。

すぐにそれが誰かは分かった。

彼らの代わりに宇髄先生の3人の奥さん（？）が、
新しい先生として紹介されて赴任したからだ。

「はぁっ！皆、驚いたと思うけど心配しないで♪
鬼願校長の教えに忠実であれば、何も迷うことはな
いのだから。同志諸君、これからよろしくねっ♪」

まきを、須磨、雛鶴の3人は売店や食堂で働いてい
たので、生徒にも馴染みはあったが先生が出来ると思
は

思っていないかった。

それ以外の教師も養護教諭の珠世先生を除けば、と
ても先生に向いているとは思えない人材ばかりだ。

つい先日まで大学生だったという甘露寺蜜璃先生。

「私もここの卒業生だから、何でも知ってるからね
っ♪」

だ、か、ら……遠慮しないで相談してっ♪

。教え汁を飲んで、私の調査した。桃色アロマ
に浸かっていれば、本当に幸せなんだからっ♪」と友
達感覚で迫ってくる。

煉獄瑠火先生は、煉獄先生のお母さんだ。

息子と同じ熱い心で、熱血指導してくれる。

「自分の名前を書く時は頭に、同志と付けなさい。

これから鬼願様の為に、働いて貰わなければいけないのですから♪」

琴葉さんという某宗教団体で聖母まがいの事をしていた胡散臭い人もいる。何と伊之助君のお母さんらしい。

「校長先生を敬い、神のように崇拜するのです♪
そうすれば全ての悩みから開放され、心穏やかに
れますから♪」と、彼女の言うことは全部、胡散臭
い。

琴葉さんが先生になってから、伊之助君は学校に來
ていない。

今、校長の息がかかっていない先生といえるのは、
カナエ先生と養護教諭の珠世先生ぐらいた。

だから宇髓先生達は、しのぶに、鬼殺隊を継いで
欲しいと思っていた。

鬼願を倒し、学園を取り戻して欲しいと……

(きつと……炭治郎君の悩みも……
あの男関連のことでしょう……)

予感があった。

しのぶ自身も鬼願校長のことは好きになれない。
出来れば辞めさせたいのが本音だ。

それでも一介の生徒に何が出来るのか？
悩ましいところだった。

——放課後——

待ち合わせ場所にやってきた炭治郎の話は意外な

展開から始まった。

「カナヲを止めて欲しいんです。

最近……禰豆子を熱心に誘って来て困っている
んです」

「誘う？……あの子が？」

いきなり突拍子もない話を始める炭治郎にしのぶは
面を食らってしまった。

「はい。カナヲが校長先生に心酔してしまって……
何故か禰豆子も巻き込もうとしているんです。

カナヲを守れなかった分……禰豆子だけでも、あ
の得体のしれない連中から助けたいんです！」

カナヲと炭治郎は恋仲で親しい間柄だが、しのぶは
姉妹。

同じ屋根の下で暮らしていたのに、そんな素振りを
まったく見せなかった。

確かに最近はお飲み物を差し入れてくれていたり、
甘露寺先生お手製の「桃色アロマ」を居間で焚いた
りと微妙な変化はあったのだが。

(アオイなら何か知っているかしら……?)

物静かなカナヲは極端に情報量が少ない。

炭治郎と付き合って、幾分か明るくなったとはいえ、
まだまだ打ち解けていないと感じている矢先だった。

「つまり……私が禰豆子さんを説得すればいいん
ですね？カナヲには気をつけるようにと……」

「はい！俺の言うことは聞いてくれなくて……」

思うよりも厄介な事態かも知れない。

兄思いの禰豆子が、炭治郎に反発している……そ
れだけで嫌な予感がする。

でも断る理由はない。

禰豆子を鬼願の魔の手から救えるなら……学園を
彼から守るヒントになるかも知れない。

「わかりました。さっそく声をかけてみます」

「お願いします！」

俺は引き続き……カナヲを説得してみます！
アイツだってきつと騙されているから……」

諦めないのは炭治郎のいいところだ。
深々とお辞儀をする炭治郎に目を細めながら、しの
ぶは決意を新たにしました。

(珠世先生と、カナエ姉さん……)

二人にも協力してもらいましょう。

あの男が洗脳まがいの事をして、生徒や先生を誑か
しているなら……阻止しなければいけませんから)

しのぶは自信がなかったのだ。

それを自分が出来るのか、どうか。
だが炭治郎のおかげで吹っ切ることが出来た。

(禰豆子さんも……カナヲも……
皆を鬼願の魔の手から守ってみせます。
どんなことを……してでも……)

しのぶには切り札があった。

自分の身体の中を流れる常人には耐えられない毒。もし鬼願が自分に手を出そうとするなら、その毒で倒す。

悪人とはいえ、人を傷つける覚悟をしたしのぶは誰にも負けない・・・そんな心地になっていた。

—— 3日後 ——

「どうして・・・どうしてなんだ・・・」

炭治郎は焦っていた。

昨日からのしのぶと連絡が取れないのだ。

しかも禰豆子も家に帰ってこない。

二人していなくなった。

母、葵枝は「心配ありません♪・・・あの子は守られていきますから♪」と炭治郎の心配を杞憂だと笑う。その事も炭治郎は薄ら寒い思いだった。

良く話しをしている養護教諭の珠世先生にも、しのぶの行方を尋ねた。

ただただ「ふふ♪そのうちに分るわ・・・♪」と、もったいぶって笑うばかりだ。

お姉さんのカナエ先生に聞いても、「大丈夫です♪時がくれば・・・あの子の方から貴方にお話があることでしょう♪」とどこ吹く風だ。

「昨日までは・・・あんなに普通だったのに・・・」

炭治郎は昨日のしのぶを思い返す。

最初に会ったのは、彼女の教室に様子を伺いに行った時だ。

変わってしまったキメツ学園では、鬼願校長の発案で新しい授業が行われていた。

「さあ皆さん。お口を拡げて迎え入れるのです♪んばあ・・・んんむう・・・んんっ♪ちゅば・・・ちゅばっ♪」

カナエ先生が気持ちよさそうに、シリコンで出来た棒を舐め回している。

舌に唾液を絡めて、丁寧にまぶしていく。

しのぶさんも周りに併せてか、ピチャピチャとシリコン棒を舐めていた。

炭治郎は（こんなことを皆にやらせているなんて・・・）と憤る。

昼間の体育の時間はもつと悲惨極まりなかった。

「もうっ！皆、胸のポインポインが足りないよ♪それじゃあ校長先生のお気に入りなんて、絶対にならないんだからね♪」

校庭を走る生徒に、甘露寺先生が拡声器で発破をかける。

皆汗を振り乱しながら懸命に走っているが、巨乳の生徒ばかりが集められているのか、体操服の中で胸が上下に暴れていた。

（し、下着をつけてないのか・・・？）

浮き出る乳首に、炭治郎は居たたまれなくなっていた。

しのぶまでこの学園に染められているようで心苦しかった。

だから放課後。

保健室で珠世先生と談笑しているしのぶに声をかけた。

二人の間に割り込むみたいで心苦しかったが、仕方がない。

「確かに・・・全てがおかしくて・・・恥ずかしく思っています」

炭治郎はホッとした。

しのぶは炭治郎と同じ感覚だった。

喜々として変態的な授業を受ける他の生徒とは違う。

「でも今、目立った行動をして怪しまれれば・・・指導部屋行きも有り得ますから・・・」

指導部屋は煉獄瑠火先生の熱血指導で行くと、人格が変わってしまう。とまで噂されている。

破廉恥な授業に断固抗議したアオイさんが連れていかれて、「素晴らしい授業、感激です♪」と180度考えを変えてしまったのには恐怖すら覚える。

今ではきよ、なほ、すみの仲良し3人組と一緒に瑠火先生のお手伝いまでしているそうだ。

「ね、禰豆子は・・・大丈夫なんですか？」

しのぶでさえ学園の方針に逆らえない。

下級生の禰豆子も同じようなエロ授業を受けさせられている。

禰豆子がカナヲみたいになってしまったら・・・と

炭治郎は気が気でない。

「ええ。新しいお友達も出来て落ち着いているわ。カナヲとちゃんと距離も取れている」

新しい友達とは、同じ学年の梅ちゃんや真菰ちゃんのことだ。
しのぶが手を回してくれたのか、二人は禰豆子にべつたりと張り付いてくれている。

「3人ともお兄ちゃんらしいわ。だから気が合うんだって」

しのぶが優しい笑みを浮かべる。
その笑顔一つで全てが順調に思えた。

それなのに・・・
それなのにだ。

今日は携帯にも出ないし、学校にも来ていない。
しのぶと禰豆子は忽然と姿を消してしまった。

もう学園には他に相談出来る男友達もいない。
孤立無援になった炭治郎は一人校舎の中を、二人を探して駆け巡るしかなかった。

「こ、これって・・・!？」

教室で女生徒達が、恥ずかしがることもなく制服を脱ぎ始めた。そしてお揃いの白装束に袖を通す。

誰もが嬉しそうに、誇らしげに。

白装束の下は下着すら付けていない。
彼女達は着替え終わると、教室を出て皆導かれるように体育館の方へと歩いていく。

「彼処で・・・何かあるのか・・・」

炭治郎は嫌な予感がしていた。
だがもう躊躇している場合じゃない。

しのぶや禰豆子の居場所がわかるかも知れない。
炭治郎は白装束の女生徒達を掻き分けながら、体育館に飛び込んだ。

「ようこそ、お披露目会へ。
竈門炭治郎。この学園で唯一の男子生徒よ」

まるで炭治郎を待ち構えていたかのように、鬼願校長が壇上から声をかけた。
でっけりとした身体の胸元を曝け出す姿は下品極まりない。

顔半分を覆うベールも怪しさを倍増させていた。

「ぐふふ、君に観てもらいたかったのだ。
我々の華々しい門出を。この私を崇拜する牝教徒どもの晴れ姿を」

仰々しく天を仰ぐ鬼願校長を讃えるように、割れんばかりの拍手が会場を埋め尽くす。

「俺・・・一人・・・!？」

体育館の中に居並ぶのは女生徒ばかり。
そして、皆校長と同じ紋様の描かれたベールを付け

て微笑んでいる。異様な光景だ。

「まるで神様みたいに・・・振る舞って!!」

炭治郎は持つてきていた模造刀を抜く。

誰一人味方はいない。
だが鬼願校長を倒さないと、この異常事態は収まらない。

「悪鬼滅殺」と彫られた模造刀は、しのぶに託されたものだ。追い出されてしまった先生達の心を込めたものらしい。

(しのぶさん!見て下さい!!!
一人でも・・・やり遂げてみせますっ!!!)

炭治郎はきつと囚われているに違いない彼女と、一緒に一歩を踏み出した。
鬼願校長に泣かされている人々が背中を押してくれている・・・そんな気分だった。

「ふふふっ♪では、お披露目を始めさせて頂きませう♪」

まずはこの私、祈柱(いのりばしら)、琴葉が鬼願様を神と崇める鬼願幸福教の創設を宣言致します♪

ふふう・・・♪
キメツ学園の全施設は教祖様、鬼願様の為に使われますう♪

そしてえ・・・生徒は一人残らず教祖様の信者あ♪

その教えを拡げる為にいただけえ・・・生きていくのですう♪」

伊之助の母、琴葉さんが彼と同じ美しい顔をペールを取ってみせる。
恍惚に上気した笑顔は、炭治郎をたじろがせる程妖艶だった。

ジヨロジヨロ・・・

「え・・・」

「教祖様に全てを捧げますう♪
何もかもおろ♪私をお・・・私達をお導いて下さい
いっつく♪くふううんつく♪」

琴葉は感極まったように仰け反ると、ピチャピチャと嬉ションし始めた。

炭治郎は目の前で起こる異常な光景に呆気にとられていた。

「ははっ！もう我慢出来なくなつたのか？」

牝犬琴葉は堪え性がない。そうは思わんか？ルカ」

「はいっ！バカ犬は私が躓けておきますっ！！」

ふふふっ♪どんな駄犬も教祖様の忠犬に仕上げるのがこの、鞭柱（むちばしら）、煉獄瑠火の役目っ！」

瑠火はサディスティックな笑みを浮かべ、手に持つ黒い鞭を振るう。

「躓けるなら、私も一緒にお願ひしますう♪
だつてえ・・・私がお姉さまに虐められるところを、
教祖様がお喜び頂けるんですもの♪

・虐柱（いじめばしら）、アオイのDMつぶりを教祖

様に一杯、ご覧頂きたいのお♪」

犬が尻尾を振るように、お尻を振りながらアオイはツインテールに束ねた髪を引っ張っている。
自分で痛みを愉しむようにヨダレを垂らしながら。

「あらあ♪そんな縮まりの悪い口元では、教祖様は愉しませれないわ♪

ちゃんとこうやってえ・・・口をすぼめてチュパチュパ吸わないければあ♪

炭治郎くん、舐柱（なめばしら）、胡蝶カナエが舌技で教祖様を骨抜きにするのお・・・愉しみにして
いてね♪」

カナエ先生は口元でシコシコと右手を上下させる。
何かを握っているようなその手が、何を暗喩しているか炭治郎にも分かった。

「ああんっ♪教祖様のオチンポ様をお世話するなら、
私のデカ乳で挟むのが一番なんですう♪

・乳柱（ちちばしら）、甘露寺蜜璃のバイズリで気持ちよくなつてもらおうのお♪」

自信満々のカナエ先生に対抗するように、蜜璃先生が胸を寄せて強調する。

強調する必要もない豊富な乳房がバレーボールみた
いにたわむ。

「では私がお二人のサポートを致しましょう。
カナエ先生にはいくらしゃぶっても、顎が疲れない
秘薬を♪

蜜璃先生には塗り込むほどに感度が上がる媚薬入り

ローションを♪

・葉柱（やくばしら）、珠世の知識と技術は全て教祖
様を愉しませる為にありますから♪」

何でも知っている珠世先生の博識があれば百人力だ。
それほど聡明で賢い彼女が、教祖・・・鬼願に屈服
してしまっている事に、炭治郎は驚きを隠せなかつた。

「わ、私の身体だつてまだまだ教祖様を喜ばせられるのだから！

・増柱（ましばしら）、産屋敷あまねの熟女ボディ♪
正常位、騎乗位、背面位！何でもご命令くださいっ！
若い牝達に負けないご奉仕で、教祖様をきつと満足
させてみせますっ！！」

前の校長だったあまねさんに至っては、変わりようが痛々しくもある。

冷静沈着で白樺の木の精に思えた美人が、教祖に絶り付く姿は最早哀れだ。

「あひやああんっ♪あまね様あとおセットで構いませんのでえ♪私も可愛がつてくださいっ！！

もう布教動画の声当てばかりじゃ、身体が疼いて仕方ないんですう♪

・鳴柱（なきばしら）、鳴女のエロボイスを耳元で直にお愉しみ下さいっ♪」

鳴女教頭・・・キメツ学園のツートップが揃って鬼願に媚を売る。

（二、これじゃ・・・もうこの学園は・・・）

炭治郎は淫靡さから程遠いはずの、清廉な先生達の痴態に圧倒されていた。
誰も彼も同じ顔をして、鬼願に媚びている。

「炭治郎くん。想像しちゃった？
ふふっ、おつきくなってるよ♪」

「え……!？」

禰豆子の同級生、真菰が悪戯っぽい笑顔で、炭治郎を覗き込んでいる。

「良かったら、オナサボするよ♪

私って手先が器用だし。

「物柱（ものばしら）の私が用意するオナホを使ったら、もう人間には戻れないかも♪」

「真菰、炭治郎のヤツはギャップ萌えしてんだよ！
つまり私の出番ってこと♪」

「どうどう？お兄ちゃん……?」

梅なんてくだらない名前乗ってた頃じゃ考えられないエロい身体でしょ？

ふふっ♪。艶柱（あでばしら）：随姫の身体で無駄撃ちしてなさい！」

高圧的に詰め寄る女は下派手なギャルだったが、確かに梅の面影がある。

禰豆子と仲良しでいつも「お兄ちゃんに似てるから好き」と懐いてくれていた彼女と同じ人間とはとても思えないが。

でも彼女達が……禰豆子といつも一緒にいてくれ

た二人が鬼願の手に堕ちている……ということ
は……

「ふふっ、気付いちちゃった？お兄ちゃん♪」

「ああ……そんな……」

炭治郎の構えた模造刀を指先で降ろしながら、目の前に現れた禰豆子。

その姿が皆とお揃いの白装束。

そして……教祖、鬼願の紋章のついた黒い首輪をしていた。

「教祖様の……嫁柱（よめばしら）：禰豆子だよ♪

教祖様が私の抱き心地を大層気に入られて♪

お眠りになる時は手元に置いておきたいと仰られたの♪だからこれからはいつもいつでも……教祖様のお側にいる。お兄ちゃんとはお別れになっちゃうけど……寂しくないよ。

私が教祖様のお役に立てていると思ったら、それだけで幸せでしょ？」

最悪の結末が目の前で、満足げに笑っている。

「しのぶさんは……間に合わなかったのか……」

「そうじゃないわ、炭治郎。貴方のおかげで……間に合った♪」

「っ！」

炭治郎は引きつった顔で振り返った。
そこにしのぶは立っていた。

皆と同じお揃いの白装束。そして黒い首輪。

「鬼願幸福教の創設を祝うこの式典に、参加出来たのは貴方のおかげよ♪

「尻柱（しりばしら）：胡蝶しのぶ、教祖様の偉大な教えに感服致しました♪

私は教祖様の尻振り牝豚ですう♪
教祖様をお祝いするしのぶの無様なケツ振りをどうかお愉しみて下さいいっ♪」

「し、しのぶさんまで……」

ブンブントと尻を振るしのぶの……信じられない下品さに炭治郎は模造刀を落としてしまった。

もう何も出来ない。
守るべきものが全て奪われてしまった……

「お兄ちゃんのおかげなんだよ。しのぶさんが同志になってくれたのは。

だってしのぶさんたら警戒心が強くて、カナヲやカナエさんが何をしても頑なに拒否していたの。

でも……お兄ちゃんが私を守るように、しのぶさんに言ってくれたから……

私が教えてあげることが出来たんだ♪」

ニッコリと朗らかに笑う禰豆子を前に、炭治郎は震えていた。

「あ……ああ……」

最初から手遅れだったのだ。禰豆子は炭治郎の知らない間に堕ちていた。

何も知らずに余計なことをして、しのぶまで犠牲に

してしまった。
自分の不甲斐なさに炭治郎の心は折れかけていた。

「炭治郎・・・わかってるわ。
ショックで声も出ないのね。いいの。
私がヌイてあげるから・・・
炭治郎は私に全てを預けて♪」

「え・・・カナヲ・・・？
ああっ！！くううっ・・・！！」

炭治郎は未知の快楽にいきなり襲われて、内股にな
っていた。
優しく語りかけてくれたカナヲが炭治郎の肉棒を慣
れた手付きで外に出すと手コキし始めたのだ。

「私：盗柱（とりばしら）栗花落カナヲの寝取りテ
クで天国に逝かせてあげる♪
そして・・・善逸達と同じ射精マゾ奴隷になって、
教祖様に貢ぐの♪
ちゃんと教団の「M」になってくれたら・・・こうや
ってヌイてあげるからね♪」

「うかう・・・す、すごいいいっ！
き、気持ちいいよっ！カナヲおおっ・・・！！」

全てを奪われて絶望していた炭治郎の瞳にも快楽が
宿っていく。
教祖、鬼願を囲む牝同志達・・・

鬼願幸福教十三柱の瞳にも同じ怪しい光が浮かぶ。

「よろしい！全て見届け受け入れた君も同志だ。

我々の為、この俺のために・・・存分に働くがいい！
これから・・・くくくっ・・・永遠にな」

「教祖様に認めて頂けたよ♪
良かったね・・・お兄ちゃん♪」

「ああ・・・あああう・・・」

もう炭治郎には逆らう気力は残されていないかった。
床に無駄撃ちしながら、屈服してしまった。

キメツ学園は鬼願幸福教に成り代わり、その教えを
世界中へと拡げていく。

美しい女性たちは、教団内の序列をあげようと必死
で教祖、鬼願に媚びる。

そして全てを失った男達は・・・抜け殻になりカナ
ヲの操り人形になってしまう。

ただ貢ぐだけのATMに成り下がった男達の群れの中
に炭治郎はいた。
敗れて何もかも失った哀れな男は、ただ卑屈な笑い
を浮かべる。

（教祖様だけじゃない・・・皆が俺を見てくれてい
た・・・
俺が主役だったんだ・・・）

ただその想い出だけを胸に、炭治郎は自分を酷使し
ながら貢ぎ続けるのだった・・・

了

～おまけ～ 鬼願幸福教十三柱

祈柱（いのりばしら）琴葉
鞭柱（むちばしら）燐火
虐柱（いじめばしら）アオイ
舐柱（なめばしら）蜜璃
乳柱（ちちばしら）珠世
薬柱（やくばしら）あまね
増柱（ましばしら）鳴女
鳴柱（なきばしら）真菰
物柱（ものばしら）堕姫
艶柱（あでばしら）彌豆子
嫁柱（よめばしら）しのぶ
尻柱（しりばしら）しのぶ
盗柱（とりばしら）カナヲ

祈柱（いのりばしら）琴葉

教団を取り仕切る巫女。
すぐ嬉ションする困った性癖があるので、
お付の者はいつも洗面器を小脇に抱えている。

鞭柱（むちばしら）燐火

自他共に厳しく鞭けるサディスト。
ただ教祖様の前でだけは生娘のように、甘え声でデレる。

虐柱（いじめばしら）アオイ

乳首を引つ張る洗濯バサミが一番の親友。
教祖様に踏みつけにされたくて、
朝の散歩の際には玄関で土下座してお迎えしている。

舐柱（なめばしら）蜜璃

清楚でお淑やかな彼女は、いつもいい匂いが
していると評判だった。そんな彼女から漂う拭い切れない
唾液臭。下品に口から伝うヨダレ跡・・・

乳柱（ちちばしら）珠世

ノーブラが基本の教団着を最大限に活かすデカ乳が魅力的。
天真爛漫な彼女に惹かれて、
教団に関わってしまう男も数多い。罪作りなボディ。

あとがき

今回は前から描きたかった鬼滅でした！2期のアニメも凄かった！！3期も楽しみです^^原作ラストまでぜひやって欲しいな思ってます！

嫁3人の活躍をページの関係で描けなかったのが心残りですがまたどっかで描きたい><

来年の夏にはまた今回の鬼滅の完結編を出す予定でいます。軌跡の続きも来年出したい！とにかく色々これからも頑張る！

そして、この本を読んで頂いた全ての人に感謝を！！皆さま本当にありがとうございました(*^^*)

さなつき

今回、別サークルと一緒に活動している日高久志さんにキメツ学園で小説を寄稿していただきました！本当にエロかった！また続きかくかもしれないと言っていたので個人的に楽しみにしています！

奥付け

- 発行・著者 さなつき
- サークル アヘアジフ
- Email neko998-aheaji@yahoo.co.jp
- Pixiv 41042507
- Twitter @sanatuki0510

小説キメツ学園：

- 著者 日高久志
- pixv <http://pixiv.net/users/4853918>
- ノクターン <http://xmypage.syosetu.com/x8371q/>

日高久志
キメツ学園
小説家



**制作
アヘアジフ**

**この作品は
二次創作であり
原作とは一切関係ありません**

複製・二次創作を禁止する